

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179
法人名	医療法人 陽成会
事業所名	グループホーム ヒロセ
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号
自己評価作成日	平成27年 8 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年 9 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックとの連携を図り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で、利用者様・ご家族様にとって安心感がある。また、重度化した場合は、ご意向に沿い、看取り介護も行っている。</p> <p>・利用者様一人ひとりが個々のペースで楽しく生活出来るよう、関わりを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は法人の老人保健施設と新設のグループホームが隣接している。地域の行事に参加をしたり、保育園と行事での交流や、利用者と職員と一緒に参加して小学生の下校時の見守りを行うなど、地域との交流が積極的に行われている。管理者と職員は、「その人らしい生きがいのある心地よい今」という理念を基に利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が穏やかに過ごされていることからそのことがうかがえる。職員の研修会の参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームヒロセ

(ユニット名) もくれん(1F)

記入者(管理者)

氏名

羽藤 千春

評価完了日

平成27年 8 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』の理念のもと、朝礼、昼礼時グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を唱和し、利用者の思いを大切にしながら、家庭的な雰囲気ですらしているよう支援している。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基に、職員全員で話し合い「その人らしい生きがいのある心地よい今」という事業所独自の理念を作成している。理念は事業所のよく見える場所に掲示し、職員は名札の裏に入れて確認しながら支援に努めている。また月一回のミーティングで、理念について話し合い共有をしている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、地方祭や文化祭に参加している。保育所との交流もあり、小学生下校時には見守り隊として交流を図っている。又、明短の実習生の受け入れも行っている。</p> <p>(外部評価) 法人の3施設が隣接しており地域との交流が積極的に行われている。周辺は田園地帯で静かであるが、天気の良い日は建物周囲を散歩したり、小学生の下校時に玄関に出て声かけをして見守りを行っている。保育園の夏祭りに参加したり、法人合同の七夕会に招待し園児との交流を行っている。自治会に加入しており、敬老会の案内を受けている。地域の盆踊りに参加したり、秋祭りには神輿が入り楽しみの行事の一つになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の勉強会を行い、地域に向け活かしている。退居後も家族の方が季節の絵を持って来てくださりホームに飾らせていただいています。又、在宅復帰した人達との交流もあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1回、運営推進会議を行っている。行事報告・ 研修報告を行い、意見交換も行っている。 会議での意見は真摯に受け止め、サービスの向上に努 めている。地域の方も含めた防火訓練も行っている。 災害時の地域との防災の連携も図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、地区総代、2つの 地区民生委員、婦人会、市職員、地域包括支援セン ター職員等の参加を得て、2か月に1回開催してい る。会議では、行事報告を行い意見交換を行うと共 に、勉強会を行っている。また参加者の協力を得て、 防災訓練も行っている。会議の内容は、各ユニットで 閲覧できるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の時、日頃の生活や取り組みを報告し、 在宅支援の専門的立場からの率直な意見を伺い、質の 向上に努めている。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会 議に出席して事業所の実情を把握すると共に、意見や 助言をもらっている。また、分からないことや、疑問 点がある場合にはその都度相談に行き協力関係を築 いている。市が主催する研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部研修に参加し、参加した職員が内部で勉強会を開 き、職員全員が共有するように努めている。安全に配 慮しながら、自由な暮らしに取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組 んでいる。職員は身体拘束について、法人全体の研修 会や外部研修にも参加して理解を深めている。 新人職 員には声のトーンや言葉の拘束など具体的に説明して いる。ユニット出入口は、手を当てると開く自動ド アになっている。不穏な状態の利用者には、職員が一 緒に散歩に出て気分転換を図ることもあるが、見守り が十分でない時は時間を決めて閉める場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 物理的・精神的・言葉による拘束も虐待の一部と認識し、職員同士注意を払っている。ユニット間の人員交代も実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、財産管理・運用に関し問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネージャーと十分な話し合いを持ち助言を受けながら重要事項説明書にて十分に説明し、見学等も行い、入居の検討をして頂いた上で契約締結している。 利用者様やご家族の権利を尊重し、納得していただける介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時や電話する際に、日常生活の様子をお伝えし、希望や要望を伺っている。毎月第3金曜日の午後に家族と個別に話合う時間を設けて運営に反映するようにしている。又、「ご意見箱」を玄関に設置し、年1回アンケートを実施。全職員に周知徹底を行い、サービスの改善に努めている。 (外部評価) 利用者には日々の暮らしの中で、家族には介護計画説明時や月1回の個別面談時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。出された意見は職員で話し合いを行い、利用者のサービスの向上に活かしている。県外在住の家族は、帰省に合わせて面会時に話し合いを持つようにしている。	事業所では、お花見や夏祭り等の行事に家族も参加してもらい、家族間の交流を図っているが、さらに、家族が意見や要望を出しやすくするために、家族が自主運営する家族会を行い、家族の本音を聞き取り、協働して利用者のケアを行っていくためにも、家族会の充実を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 介護老人保健施設との合同ミーティング、グループホーム独自のミーティングに於いて意見交換を行っている。職員・管理者・代表者が話しやすい環境を整えており、意見を反映させながら質の向上に努めている。	
			(外部評価) 月1回隣接する老人保健施設と2つのグループホーム合同で全体会を開催し、その後事業所独自のミーティングで職員全員が運営に関する意見を出し合っている。利用者に関することは、気付きシートを使って記録し、職員間で共有している。管理者は、年2回の職員の自己評価に基づき、個人面談を行い職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者・職員が出席する全体会議等に参加し、職員と意見交換する機会をつくっている。又、職員個々の意見も積極的に取り入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員1人ひとりの目標や自己評価に目を通し、個々のケアレベルの把握に努めている。又、資格取得のための研修や、対外的セミナーの参加を進めて、ケアの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修に参加し、意見交換を行うなどの交流を図っている。圏域同業者との交流を通して、研修・研鑽に努めている。 又、その意見を取り入れることにより、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族・担当者・ケアマネジャーの連携で、ご本人が「安心」「信頼」を感じていただけるような関係づくりにつとめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談や契約時等に生活状況を聴き、何に困っているかなどを把握した上での生活援助の説明をし、家族の不安等を軽減できるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様、ご家族の思いも大切にしつつ、専門的な分析を行い、どのような支援をしていくかなど十分に相談した上でサービス提供をしている。また、病院が運営母体でもあり、定期健診や訪問診療など必要に応じて対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事等と一緒にすることで、協力の輪がひろがり、本人も達成感・充実感が得られている。 職員も支えられながら頼りにし、心から感謝の言葉を伝えるなど、穏やかに過ごせるよう関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回の家族会や面会時には、ホームでの生活状況をご家族へ報告し、本人の希望や身体状況を伝え、理解して頂き、良い関係を築けるようスタッフ一同、努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所へは、ご家族に協力していただき、馴染みの関係が途切れないように支援している。法人内では職員が仲介し、良い関係が築けるよう支援している。 (外部評価) 利用者の家族から、これまでの馴染みの人や場所の情報を聞き取っている。馴染みの美容院から迎えに来てくれて出掛ける利用者もいる。月2回のドライブを利用して、利用者の行きたい場所に立ち寄ることもあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。お墓参りに家族の協力を得て出掛けるなど、利用者の希望が叶えられるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席でも気の合う入居者様が隣になるようセッティングしたり、レクリエーション等への参加も皆さんに声かけし一緒に楽しめるよう、職員が仲介に入り良い関係が築けるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も訪問を通して今の状況を把握し、ご家族や本人から相談しやすい環境作りをしている。他施設へ変わっても、情報を共有しスムーズに生活が送れるように支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向に沿えるようアセスメントを行い、生活環境を整え、その人らしく過ごせるよう支援している。本人・ご家族とコミュニケーションを多く持ち、思いや希望を把握していけるよう努め意思疎通の難しい方の場合には、日頃の表情や様子をしっかりと観察しながら検討している。 (外部評価) 担当職員は、利用者や家族の思いや要望を聞き取り「私の気持ちシート」や「気づきシート」に記録し、職員間で情報を共有している。それらを基に本人本位に検討している。認知症の進行により、意思疎通困難な利用者は、声かけしながら表情や行動等で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には必ずご家族に生活歴や自宅での様子、本人が好きな作業や趣味を伺い、職員間で情報を共有し把握できるよう努力している。また、希望する病院等あれば、継続してご利用できるよう、ご家族と相談し検討している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの現状を職員間で把握できるよう、申し送り、細かく情報交換し変化を見落とさないよう努めている。また、本人の状態に合わせ休憩をとったり、得意とする活動は続けていけるようにケアプラン等に取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・ご家族の意向を聞いて、カンファレンスを実施。また、体調変化があれば、その都度見直しを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて、担当職員が介護計画を作成し、1か月毎にカンファレンスを実施して、モニタリング・介護計画の見直しを行っている。状態変化がない場合でも3か月毎に見直しを行い、介護支援専門員が評価をしている。介護計画は家族の面会時に説明し、同意を得ている。県外在住の家族へも帰省時に説明をして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人、一人ひとりの変化や状況を個別記録に具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。状況変化があれば、その都度見直ししている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。看護職員・歯科衛生士・PT・OT・ST・管理栄養士等のアドバイスを受けられる体制であり、よりいっそうの自立支援をおこなっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。また、近隣の国分寺に参拝したり、桜井保育所の園児と楽しく過ごして頂く等、交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関も整っている。訪問診療を受けられる利用 者様もおられる。また、緊急時の対応が確保されて いることの安心感がある。 希望されるかかりつけ医とも連携を図り、適切な医療 が受けられるように支援している。 (外部評価) 受診は従来のかかりつけ医を継続している。状態の変 化や家族の希望で母体病院の協力医が往診してくれ るため、変更をする利用者もいる。歯科の往診もあ る。専門外来を通院する利用者は、家族が付き添っ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護との連携を図り、日常の健康管理をしてい る。また、広瀬クリニック・在宅支援診療所との連携 も図れている。24時間医療連携も可能な支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中も主治医とも連携し、早期退院に向けて話し合 い、退院後の療養計画・ホーム入居復帰について、ご 家族とも相談し協力している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時、説明を行い意向を伺っている。また、体調変 化があれば、その都度、本人・ご家族と十分に話し合 い説明しながら方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステー ションとの連携を図っている。 (外部評価) 看取り介護に関する指針を作成しており、職員も理解 している。母体病院の協力医と訪問看護の連携があ り、医療体制は整っている。今までにも、利用者や家 族の要望に応え看取りを行っている。入居時に看取り の意向を確認して、重度化した場合には、説明を行っ て家族の同意を得ている。職員は月2回、老人保健施 設との合同の勉強会に参加したり、外部研修に参加し ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルに沿って行う。 勉強会で定期的に意識付けを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」としてマニュアルにて全職員の意識付けを行っている。年2回の防災訓練では昼夜間想定し実施をしている。また地域の総代さん等の参加・協力も得ている。災害時の食品等を3日分備蓄している。 (外部評価) 年2回の防災訓練を昼夜間想定で実施している。毎月10日を「防災の日」として、職員間で災害時のシュミレーションを行い、職員全員の周知ができています。運営推進会議開催時に、避難訓練を参加者と一緒に行い、災害時の対応について意見交換を行い、協力体制ができています。備蓄品は隣接の老人保健施設に合同で整備ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご家族の意向に沿った呼び方など、利用者様一人ひとりに応じた配慮をしている。特に入浴中、排泄などは個々の希望に配慮している。 (外部評価) 職員は、日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者が不快にならないように気を付けて、声かけや対応など職員間で注意をしながら支援している。家族の意向を踏まえて言葉使いや呼び方を決めている。身体をさらす場面として、排泄や入浴時の羞恥心にも配慮がなされている。新人職員は、法人内の接遇研修に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より利用者様の思いを理解するよう心掛けて関わっている。表現や自己決定がうまくできない利用者様にも、表情やしぐさなどを見て、思いが伝えられるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に沿って散歩などを行っている。中庭で育てているトマトを気に入って、何度も取りに行かれる利用者様もいる。また、本人様が發揮できる家事等については意思確認をしながら行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服選びはご家族様と共に相談し、本人様の好みにも合わせ、整えられるようにしている。また、月2回の散髪の便宜を図っている。利用者様一人ひとりの要望に応え、満足されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの得意とする調理・盛り付け・片付け等を職員と一緒にしている。毎月1回の食事会では、利用者様の希望に応え、献立し、一緒に買い物・調理を行い、同じテーブルを囲み、談笑しながら食事をしている。 (外部評価) 老人保健施設の管理栄養士が献立を立てている。献立に合わせて食材が届き各ユニットで調理している。利用者は、できる範囲で調理、盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。月1回の食事会では、好みのメニューを取り入れ調理し楽しみの一つになっている。職員も食卓と一緒に囲み、同じ料理を食べている。利用者の身体状態に合わせて、食事形態を変えて対応している。毎月利用者全員で外出に出かけ、回転ずし等、利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人の管理栄養士による献立表をもとに一人ひとりの状態にあった調理をし、バランスの良い食事を提供している。また、水分量・食事量は毎回確認し、バイタル表にて把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとり、声かけ・見守り・介助にて口腔ケアを実施している。また、歯科衛生士による個別口腔ケア指導も行っている。 義歯は夕食後、口腔ケア後に毎日消毒している。口腔ケアセットは毎週土曜日に消毒し、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、自然な排泄ができるよう、自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら、声かけをしてトイレ誘導をしている。紙パンツから布パンツへ移行できた利用者もいる。オムツを使用している利用者はおらず、夜間も利用者からの訴えや、声かけしてトイレ誘導介助を行っている。自立に向けた取組みに積極的である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分補給、適度な運動と活動的な日常生活を送り、便秘を予防している。便秘気味の利用者様には、体調に合わせ、内服薬でコントロール・予防し、不穩に繋がらないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々のペースに合わせた時間での入浴を行い、職員とコミュニケーションを図りながら楽しく入浴できるよう支援している。また老健大浴場にも行かれ、気分転換を図られる利用者様もいます。	
			(外部評価) 利用者は、1日おき週3回程度入浴している。広い浴室に家庭浴槽があり、一人ずつ声かけを行いながら、安全に入浴できるように支援している。また、利用者一人ひとりの好みのシャンプーやリンス、ボディソープ等を用意したり、入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。隣接する老人保健施設の大浴場での入浴を希望する利用者には職員が同行し、入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく声かけを行い、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の流れの中、利用者様の体調や気分、状況に応じて休息できるよう支援している。居室にて自由に心地よく過ごしていただける時間も大切に見守っています。 日中はなるべく季節感をあじわえる散歩等により気分転換を図り、安眠・安楽できる環境も提供している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示や内服の内容、処方された薬の説明書を全職員が目を通し把握するようにしている。個別の内服薬表を作成し、きちんと服用できるよう管理している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりに合った出来る事、自信に繋がる事を見つけ出し、役割分担をしている。役立つことの喜びや楽しみになるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿い、体調・天気の良い日は外出をし、地域の人々と談話したり、交流しながら季節の花を楽しまれている。また、ご家族様の協力のもと、外出・外泊されたりする利用者様もおられる。日頃より、外出の希望はできるだけ対応し、買い物等の日も設けている。	
			(外部評価) 行事担当者が毎月交替で外出できるように計画を立てている。隣接する老人保健施設から車いす用の車両を借りて、利用者全員でドライブや外食を楽しんで帰ることもある。日常的には、事業所周围を1周できる散歩コースを散歩したり、月2回おやつのお買い物に外出できるように支援している。また、家族の協力で外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いは事務所で預かっている。希望や能力に応じて所持し、買い物を楽しまれている。特に週1回のパンの購入においては、好きなパンを選び、自ら支払いもされ、満足されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族より郵便物が届くとお礼の電話をするよう声かけをし、電話にてお話をされる。人と人とのつながりを大切にしております。お孫さんの成長を楽しみながら、定期的到手紙を書かれている利用者様もおられます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーに座り、中庭の季節の草花の観賞や、日光浴をされたりして楽しまれている。 日差しが強い日等は、昼間カーテンを閉め、視界を阻害しないようにしている。	
			(外部評価) 共用空間は、明るく開放感があり落ち着いた雰囲気 で、季節の花が飾られ、のどかな田園風景を見渡すことができる。キッチンからリビングルームが見渡せ、利用者は、畳のコーナーで体を休ませたり、ソファでくつろいだりしている。ユニットの出入り口に椅子が置いてあり、好みの場所で利用者同士談笑している。 トイレは居室に近い場所にあり、利用者が過ごしやすい工夫が各所に見られる。退所した利用者の家族が、季節ごとに絵画の飾りつけの交換に来所されるなど関係が続いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースに利用者様一人ひとりが気に入った場所を確保し、窓の外を眺めたり、DVDを観賞する等、自由な時間を過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真など、大切な物を居室に飾り、心身共に落ち着かれ、ゆったりとした時間を過ごされている。	
			(外部評価) 居室には、ベッドと整理ダンス、クローゼット、エアコンが備え付けられている。自宅で使い慣れたテレビやラジオ、ぬいぐるみ、家族の写真が飾られ、利用者と家族が談笑しながら、安心して居心地よく過ごせる居室づくりができています。また、仏壇を持ち込まれている利用者もおられ、自宅で過ごしていた空間に近づけるよう配慮している。居室の入口には利用者の好みの花が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室入口に大きな目印を設置し、自分の部屋であると認識できるよう工夫している。 居室以外にも、トイレの入り口に目印を貼り、迷わないよう整備している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179
法人名	医療法人 陽成会
事業所名	グループホーム ヒロセ
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号
自己評価作成日	平成27年 8 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年 9 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックとの連携を図り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で、利用者様・ご家族様にとって安心感がある。また、重度化した場合は、ご意向に沿い、看取り介護も行っている。</p> <p>・利用者様一人ひとりが個々のペースで楽しく生活出来るよう、関わりを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は法人の老人保健施設と新設のグループホームが隣接している。地域の行事に参加をしたり、保育園と行事での交流や、利用者と職員と一緒に参加して小学生の下校時の見守りを行うなど、地域との交流が積極的に行われている。管理者と職員は、「その人らしい生きがいのある心地よい今」という理念を基に利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が穏やかに過ごされていることからそのことがうかがえる。職員の研修会の参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームヒロセ

(ユニット名) つつじ(2F)

記入者(管理者)

氏名 羽藤 千春

評価完了日

平成27年 8 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する』を基本に、毎日朝礼時・昼礼時に唱和をしている。 グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を掲げ、家庭的な雰囲気の中で笑い声が絶えず聞こえてくるよう支援している。穏やかに過ごせるよう個々に合わせたケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基に、職員全員で話し合い「その人らしい生きがいのある心地よい今」という事業所独自の理念を作成している。理念は事業所のよく見える場所に掲示し、職員は名札の裏に入れて確認しながら支援に努めている。また月一回のミーティングで、理念について話し合い共有をしている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭では、おみこし、子供みこしの来訪があり、保育所の「夏祭り」や、ホームでの七夕会で、園児との交流も楽しみのひとつである。 自治会に加入し、小学生の「見守り隊」として、地域の一員として日常的に交流している。</p> <p>(外部評価) 法人の3施設が隣接しており地域との交流が積極的に行われている。周辺は田園地帯で静かであるが、天気の良い日は建物周囲を散歩したり、小学生の下校時に玄関に出て声かけをして見守りを行っている。保育園の夏祭りに参加したり、法人合同の七夕会に招待し園児との交流を行っている。自治会に加入しており、敬老会の案内を受けている。地域の盆踊りに参加したり、秋祭りには神輿が入り楽しみの行事の一つになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生の現場体験や短大生の実習等の受け入れを行い認知症への理解をして頂けるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回開催し、利用者様やご家族 様からの評価・意見・苦情を話し合いサービスの向上 に活かしている。地域の方々を交えた防災訓練も行っ ている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、地区総代、2つの 地区民生委員、婦人会、市職員、地域包括支援セン ター職員等の参加を得て、2か月に1回開催してい る。会議では、行事報告を行い意見交換を行うと共 に、勉強会を行っている。また参加者の協力を得て、 防災訓練も行っている。会議の内容は、各ユニットで 閲覧できるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に市担当者の方に参加して頂き、現場の 取り組み等報告している。日頃から、何かあれば連絡 をとり、協力関係を築き取り組んでいる。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会 議に出席して事業所の実情を把握すると共に、意見や 助言をもらっている。また、分からないことや、疑問 点がある場合にはその都度相談に行き協力関係を築 いている。市が主催する研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会等に参加し職員全員が指示基準を正 しく理解できるよう努めており、拘束しないケアを実 施している。不穏な状態の利用者には、散歩に誘い気 分転換を図るなど、1対1の支援をするよう心がけてい る。	
			(外部評価) 玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組 んでいる。職員は身体拘束について、法人全体の研修 会や外部研修にも参加して理解を深めている。新人職 員には声のトーンや言葉の拘束など具体的に説明して いる。ユニット出入口は、手を当てると開く自動ド アになっている。不穏な状態の利用者には、職員が一 緒に散歩に出て気分転換を図ることもあるが、見守り が十分でない時は時間を決めて閉める場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の知識を深める為、勉強会や研修に参加している。物理的・精神的虐待についても理解を深め、声掛け注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度については必要に応じて説明が出来るよう、知識を深め準備をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な話し合いを持ち、ご家族・利用者の不安や疑問点等を検討し、解約時にも利用者の権利を尊重し、理解・納得して頂けるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や第三金曜の家族会で個々に意見・要望を受けている。また、玄関に意見箱も設置している。アンケートを年1回実施し、要望等を表せる機会を設けている。サービス改善に努めている。	
			(外部評価) 利用者には日々の暮らしの中で、家族には介護計画説明時や月1回の個別面談時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。出された意見は職員で話し合いを行い、利用者のサービスの向上に活かしている。県外在住の家族は、帰省に合わせて面会時に話し合いを持つようにしている。	事業所では、お花見や夏祭り等の行事に家族も参加してもらい、家族間の交流を図っているが、さらに、家族が意見や要望を出しやすくするために、家族が自主運営する家族会を行い、家族の本音を聞き取り、協働して利用者のケアを行っていくためにも、家族会の充実を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 介護老人保健施設との合同ミーティング、グループホーム独自のミーティングに於いて意見交換を行っている。職員・管理者・代表者が話しやすい環境を整えており、意見を反映させながら質の向上に努めている。 (外部評価) 月1回隣接する老人保健施設と2つのグループホーム合同で全体会を開催し、その後事業所独自のミーティングで職員全員が運営に関する意見を出し合っている。利用者に関することは、気付きシートを使って記録し、職員間で共有している。管理者は、年2回の職員の自己評価に基づき、個人面談を行い職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 全体会議等に参加し意見交換を行い、やりがいのある職場として環境整備に努めている。また、職員各自の努力や向上心を持って働けているか、意見交換できるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のレベル、ケアの質の向上に努め、施設内外の研修を受ける機会や資格取得にも力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者と職員が幅広く交流し、意見交換が出来るよう研修に参加しサービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族・担当者・ケアマネージャーの連携で、ご本人が「安心」「信頼」を感じていただけるような関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) グループホームが生活の場である事をご家族に理解して頂き利用者を尊重したケアに努めている。また、いつでも不安・要望等、相談して頂けるよう声掛けを行い、信頼関係を深めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者が必要としている支援を見極め、サービスが提供できるよう支援している。補助具や介護用品の提案・説明も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者を自分の家族と思い、「人生の先輩」としての意見を拝聴しながら、家庭的な関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況、希望されている事等をお伝えしながら、ご家族との絆を大切に支えている。 定期的に広報をつくり、生き生きとした日常生活を感じてもらえるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の協力を得ながら、馴染みの知人との関係が途切れないよう支援に努めている。また、馴染みの場所をドライブし散策している。同法人の馴染みの方については、面会の機会が多くもてるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の家族から、これまでの馴染みの人や場所の情報を聞き取っている。馴染みの美容院から迎えに来てくれて出掛ける利用者もいる。月2回のドライブを利用して、利用者の行きたい場所に立ち寄ることもあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。お墓参りに家族の協力を得て出掛けるなど、利用者の希望が叶えられるように配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりを尊重し、生活歴や体調を考え、趣味の合う方などと同じテーブルにする等、孤立することのないように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された後の支援や、他施設の情報提供にも努め、今の状況を把握し、いつでも相談しやすい環境づくりに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 暮らしの中から本人の希望や意向を把握し、出来る事・やりたい事等を分析し、自信と喜びに繋げられるよう努めている。	
			(外部評価) 担当職員は、利用者や家族の思いや要望を聞き取り「私の気持ちシート」や「気づきシート」に記録し、職員間で情報を共有している。それらを基に本人本位に検討している。認知症の進行により、意思疎通困難な利用者は、声かけしながら表情や行動等で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、ご家族から生活歴等の情報や心身の状況を収集し、サービス利用に役立てるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者のペースに合わせ、一人ひとりの現状を把握し変化を見落とさないよう努めている。利用者に合わせて休息の時間もとっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の生活の中で普段との違いに気付いた事は、気付きシートに記入・活用し、全職員がケアプランに連動できるよう工夫し、本人・家族の意見や要望を取り入れ介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて、担当職員が介護計画を作成し、1か月毎にカンファレンスを実施して、モニタリング・介護計画の見直しを行っている。状態変化がない場合でも3か月毎に見直しを行い、介護支援専門員が評価をしている。介護計画は家族の面会時に説明し、同意を得ている。県外在住の家族へも帰省時に説明をして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人一人の変化、状況、気付きを個別記録と気付きシートに記入し、全職員が情報を共有し実践や見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。看護職員・歯科衛生士・PT・OT・ST・管理栄養士等のアドバイスを受けられる体制であり、よりいっそうの自立支援をおこなっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。また、近隣の国分寺に参拝したり、桜井保育所の園児と楽しく過ごして頂き、交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関も整っている。訪問診療を受けられる利用 者様もおられる。また、緊急時の対応が確保されて いることの安心感がある。 希望されるかかりつけ医とも連携を図り、適切な医療 が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 受診は従来のかかりつけ医を継続している。状態の変 化や家族の希望で母体病院の協力医が往診してくれ るため、変更をする利用者もいる。歯科の往診もあ る。専門外来を通院する利用者は、家族が付き添っ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護との連携を図り、日常の健康管理をしてい る。また、広瀬クリニック・在宅支援診療所との連携 も図れている。24時間医療連携も可能な支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者の入院中も安心して治療ができるよう病院と連 携を図り、情報交換や相談に応じ関わりをもってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時、説明を行い意向を伺っている。また、体調変 化があれば、その都度、本人・ご家族と十分に話し合 い説明しながら方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステー ションとの連携を図っている。	
			(外部評価) 看取り介護に関する指針を作成しており、職員も理解 している。母体病院の協力医と訪問看護の連携があ り、医療体制は整っている。今までにも、利用者や家 族の要望に応え看取りを行っている。入居時に看取り の意向を確認して、重度化した場合には、説明を行っ て家族の同意を得ている。職員は月2回、老人保健施 設との合同の勉強会に参加したり、外部研修に参加し ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応についての勉強会が定期的 に開催されている。全職員が参加し、知識習得し、実 践力を身に付けるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 地域の総代さんの協力を得て、防災訓練を定期的に行 い、毎月10日を「防災の日」としてマニュアルを再 認識している。また様々な状況を想定し、ホーム内で 自主的な訓練を行い、全職員に意識付けしている。災 害時は医療連携（関連病院）し、災害時の食品、水等 3日分の備蓄をしている。	
			(外部評価) 年2回の防災訓練を昼夜間想定で実施している。 毎 月10日を「防災の日」として、職員間で災害時の シュミレーションを行い、職員全員の周知ができてい る。運営推進会議開催時に、避難訓練を参加者と一緒 に実施しており、災害時の対応について意見交換を行 い、協力体制ができています。備蓄品は隣接の老人保健 施設に合同で整備できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をしてい る	(自己評価) 言葉かけや対応の仕方に注意し、人格を尊重したケア を心がけている。人生の先輩であることを認識し、思 いやりをもって接している。利用者のプライバシーに は、誠意をもって対応している。	
			(外部評価) 職員は、日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利 用者が不快にならないように気を付けて、声かけや対 応など職員間で注意をしながら支援している。家族の 意向を踏まえて言葉使いや呼び方を決めている。身体 をさらす場面として、排泄や入浴時の羞恥心にも配慮 がなされている。新人職員は、法人内の接遇研修に参 加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で表現や仕草・言動を読み取れるよう、 職員一同が心がけ、自己決定の支援につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にし、希望にそって支援している。共有スペースで過ごす場合には、新聞・雑誌・レクの提供をし、居室で過ごされる場合は、見守り、声掛けをし、空調などにも気を付け、自由に過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の衣服選びは利用者の楽しみの一つとなっていて、おしゃれを楽しまれている。また、月2回、散歩の日を設け、要望に応え満足されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのもを聞きながら、毎月1回、外食をもうけている。また、食事会では、職員と一緒に調理したり、できることを楽しみながら行っていただけるように支援している。	
			(外部評価) 老人保健施設の管理栄養士が献立を立てている。献立に合わせて食材が届き各ユニットで調理している。利用者は、できる範囲で調理、盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。月1回の食事会では、好みのメニューを取り入れ調理し楽しみの一つになっている。職員も食卓と一緒に囲み、同じ料理を食べている。利用者の身体状態に合わせて、食事形態を変えて対応をしている。毎月利用者全員で外食に出かけ、回転ずし等、利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考え、栄養士とも相談し、一日の食事摂取量や水分等を把握している。また、十分注意を払い、体調管理を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には、嚥下体操を行い唾液の分泌を促している。毎食後、職員が声掛け・見守り・介助にて個々の身体状態に応じた口腔ケアを行い口腔内の状態を把握し衛生に努め、清潔にしている。夜間、義歯はポリデント消毒しケースにて保管している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 利用者が出来る限りトイレで排泄できるよう、状況に応じ、紙パンツや失禁パンツ等を提供し、自立に向けた支援をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら、声かけをしてトイレ誘導をしている。紙パンツから布パンツへ移行できた利用者もいる。オムツを使用している利用者はおらず、夜間も利用者からの訴えや、声かけしてトイレ誘導介助を行っている。自立に向けた取組みに積極的である。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日、排泄のチェックを行い、水分補給、適度の運動、ウォシュレット施行により、排便の習慣付けをしている。便秘気味の利用者には便秘薬等、体調に合わせて服用し、コントロールしている。個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 基本的に週3回（一日おき）に、利用者、一人ひとりの希望に応じた入浴を楽しめるよう支援している。時には、温泉の元を入れて気分転換をして頂いている。隣接する老人保健施設での入浴の希望にも応じている。</p> <p>(外部評価) 利用者は、1日おき週3回程度入浴している。広い浴室に家庭浴槽があり、一人ずつ声かけを行いながら、安全に入浴できるように支援している。また、利用者一人ひとりの好みのシャンプーやリンス、ボディソープ等を用意したり、入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。隣接する老人保健施設の大浴場での入浴を希望する利用者には職員が同行し、入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく声かけを行い、入浴できるように支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 体調や状況に応じ休息の時間も大切にしている。ソファ、畳にて休憩される方もいる。ベトリクライニング・クッション・室温調整・就寝時間等、一人ひとりの好みや体調に考慮し、気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の使用している薬の内容や用法・用量については処方された薬の説明書にて理解し、状態の変化に気を付け、いつもと違っていれば医師と相談し、適切に対処している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎月、ドライブを行い気分転換を図っている。家庭用カラオケで唄ったり、洗濯物干し・たたみ、食事の手伝いや片付けなど、できる事、楽しめる事を増やし役割を持って頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃より、散歩や外気浴をおこなっている。外気浴時にお茶を飲んだり、歌を唄ったりもしている。また、毎月、外食に出かけ気分転換を図っている。	
			(外部評価) 行事担当者が毎月交替で外出できるように計画を立てている。隣接する老人保健施設から車いす用の車両を借りて、利用者全員でドライブや外食を楽しんで帰ることもある。日常的には、事業所周囲を1周できる散歩コースを散歩したり、月2回おやつのお買い物に外出できるように支援している。また、家族の協力で外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎週、移動パン屋さんがこられ、職員同伴にて好きなパンを購入し楽しまれている。また、買い物の日を設け、職員同行にて買い物に出かけ、好みのお菓子や日用品を購入できるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分でいつでもご家族や知人に電話をかけられるよう、携帯電話を使われている方もいる。手紙を書くことで人と人のつながりが出来る要支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 畳コーナーに座り、中庭の季節の草花の観賞や、日光浴をされたりして楽しんでいる。 日差しが強い日等は、昼間カーテンを閉め、視界を阻害しないようにしている。また、庭の草花を飾ったり、壁に季節に合った飾り付けをし季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、明るく開放感があり落ち着いた雰囲気、季節の花が飾られ、のどかな田園風景を見渡すことができる。キッチンからリビングルームが見渡せ、利用者は、畳のコーナーで体を休ませたり、ソファでくつろいだりしている。ユニットの出入りに椅子が置いてあり、好みの場所で利用者同士談笑している。トイレは居室に近い場所にあり、利用者が過ごしやすい工夫が各所に見られる。退所した利用者の家族が、季節ごとに絵画の飾りつけの交換に来所されるなど関係が続いている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合った利用者同士、同じテーブルに座るよう配慮している。また、横になりたい方はホールにある畳の間で自由に休まっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご家族の写真を飾ったり、テレビやラジオ、仏壇などを置かれる方もおられ、自分の家に居る時と同じように落ち着いて過ごせるような空間づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドと整理ダンス、クローゼット、エアコンが備え付けられている。自宅で使い慣れたテレビやラジオ、ぬいぐるみ、家族の写真が飾られ、利用者や家族が談笑しながら、安心して居心地よく過ごせる居室づくりができています。また、仏壇を持ち込まれている利用者もおられ、自宅で過ごしていた空間に近づけるよう配慮している。居室の入口には利用者の好みの花が飾られている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下やホールは、安全に歩行・移動が出来るよう手すりを設置しバリアフリーである。障害物が無いよう配慮している。また、自分の居室を把握できるよう造花やネムプレートを利用し工夫している。</p>	